

1. 公共施設

【意見・質問】

【表題①】浪江東中学校及び幾世橋小学校の除染について

【場所】大字幾世橋字来福寺、大字北幾世橋字植畑（調査地3, 13）

【内容】浪江東中学校の校舎付近は丁寧に除染が実施されたため線量が低いですが、校舎北側にある生け垣の下は0.2～0.4の線量である。浪江町が町内で学校を再開する場合の候補地であり、さらに徹底した除染が必要である。

幾世橋小学校は100年を超える歴史を持ち、相馬昌胤公が隠居生活して以来、文教の地としての誇りと伝統を引き継ぐ学び舎である。放課後や休日にはソフトボールや野球に取り組む子どもたちの姿があった。少女ソフトボールチームは福島県大会9連覇を成し遂げ、全国大会ベスト16の成績を残すなど、文武両道の子どもたちを育ててきた。8月末には地区民大運動会が催され、幾世橋、北幾世橋、棚塩の住民がそれぞれの地区の連帯感を強め、親睦を深めてきた。小学校としての再開は当面難しいが、地区民の思い出の地であり、避難者が幾世橋に戻った際には幾世橋小学校を訪れる人が多い。地区民が育ててきた庭園は線量が若干高いため、除染を徹底すべき。

【資料】

- ①浪江東中学校除染結果報告書
- ②浪江東中学校北側植栽でのガンマカメラ撮影結果
- ③幾世橋小学校除染結果報告書
- ④幾世橋小学校庭園でのガンマカメラ撮影結果

【写真等情報】



←【③浪江東中学校】
校舎付近は線量が低いですが、向かいにある生け垣は若干高かった

【幾世橋小学校⑬】→
校舎周辺は低いですが、庭園の樹木の下では0.3μSv以上の数値である。



【位置情報】



2. 住宅の林

【意見・質問】

【表題②】住宅近くの樹木林・竹林の除染について

【場所】大字幾世橋字辻前、大字北幾世橋字万海、同植畑(調査地4, 6, 12, 14)

【内容】除染を行った住宅周辺は線量が低いが、住宅に近い樹木林や竹林は線量が高く不安を感じる。樹木や竹が取り込んだ放射性物質が排出され、その後再び根から吸収されたりして循環しているらしい。年一回でもよいから、複数年にわたり除染作業を実施して線量を下げろべき。

【資料】

- ①浪江公民館幾世橋分館除染結果報告書
- ②百間沢集会所除染結果報告書
- ③百間沢集会所林縁部ガンマカメラ撮影結果
- ④避難指示解除に関する有識者検証委員会での森林除染に対する見解

【写真等情報】



←【④辻前の住宅の樹木林】
0.66 μ Sv/h



【万海の宅地内の竹林⑥】→
0.6~1.1 μ Sv/h



←【⑫植畑の住宅裏の竹林】
1.2~1.4 μ Sv/h



【万海の宅地内の竹林⑭】→
0.6~0.85 μ Sv/h



3. 寺・神社

【意見・質問】

【表題③】大聖寺境内及び共同墓地に通じる参道の除染について

【場所】大字北幾世橋字北原（調査地13）

【内容】毎年8月10日頃には大聖寺本堂において盆供養施餓鬼の大法事が催され、入盆や先祖供養に800戸を超える檀家の参拝者が訪れてきた経緯がある。また、3月の鬼子母神祭や大晦日の除夜の鐘を突く時など、檀家以外にも多くの善男善女が訪れて祈願の心を傾けてきた聖なる地である。歴代の住職は住民の相談事に乗ってくださり、大聖寺は住民にとって心のよりどころとして存在してきた。

一方、彼岸や盆には多くの人々が墓参りに訪れる。震災直後は多くの墓石が倒れ、悲惨な状況であったが、徐々に墓石を修復する家が増えるとともに、東京電力社員による奉仕作業により共同墓地内は整頓されてきた。除染に伴い共同墓地周辺の林の中も下草が刈り取られゴミも片付けられた。たいへんきれいになり、東の間であるが墓参者は爽やかな印象を持つことができた。しかし、杉林の地表近くは相変わらず線量が高く、大聖寺から共同墓地に通じる参道の間地点では1.715の数値だった。共同墓地は両大字幾世橋区が管理しており、盆前には草刈りや除草剤散布の作業を行っている。

大聖寺における諸行事に参加するために、また墓参りや管理作業のために出かけてくる際に、線量を気にせず安心して訪れることができるように、大聖寺境内や参道付近の除染を改めて徹底すべき。

【資料】

- ①大聖寺除染結果報告書
- ②大聖寺参道でのガンマカメラ撮影結果

【表題④】初発神社の除染について

【場所】大字北幾世橋字町後(調査地17)

【内容】地域の住宅敷地内の樹木林や竹林と同様に神社の杜も線量が高く、本殿前の杜は1.07～1.25である。かつて初発神社は幾世橋村の村社だったが、江戸時代から雄神楽を有する神社であり、近郷における神社間の中心的な存在でもあった。神社境内にある社務所は大正期に建てられ、事務室において神社の諸用を営むだけでなく、大広間は幾世橋村の集会所として、また町村合併後も両大字幾世橋区の集会所として地域住民の会合にも貢献してきた。境内は地域の子どもの遊び場所でもあり、過去には参道沿いに市が開かれ、近郷近在から多くの人々が集まり賑わった。最近では夏の盆踊り会場として櫓が建てられ帰省客も含めた大勢の人々が集う場所でもあった。大晦日から元旦にかけて氏子が元朝参りに集うときは神社に清らかな空気が漂い、姿勢を正して祈願に臨む人々の姿が見られた。現在は、清めを受けるべき境内の杜の下で放射線物質が大量に存在している。願わくは、放射線を払うとともに境内を清めた上で、安全安心の場所として祈願成就の祭礼を行いたく、除染を徹底すべき。

【資料】

- ①初発神社除染結果報告書
- ②初発神社でのガンマカメラ撮影結果

3. 寺・神社

【写真等情報】



← 【⑬大聖寺から墓地への参道】 →

杉林の下で1.715を表示した。



← 【⑰初発神社】 →

鳥居の右側の柱で
0.7~1.25 μ Sv/h

除染後も朽ちた木は残された。
処分したい。



【位置情報】



4. 河川敷

【意見・質問】

【表題⑤】地域の組合が鮭漁を営んできた請戸川河川敷の除染について

【場所】大字幾世橋一里檀、大字北幾世橋荒井（調査地2, 5, 15, 16）

【内容】大字幾世橋、大字北幾世橋は避難解除準備区域であるが、河川敷においては線量が一様に高い。上流の帰還困難区域に存在していた放射性物質を含む木片や落ち葉、土砂が運ばれてきて当地域の河川敷に溜まっている。高瀬川と請戸川が合流する荒井地区の河川敷では一帯が1を超える線量である。請戸川の河口では有史以来鮭漁が行われてきており、荒井前には東北地方で一番大規模な鮭築場が泉田川漁業協同組合により設置されている。秋になると漁協が鮭漁に取り組み、平成19年は94,568匹、20年には81,494匹の鮭を捕獲した。20年は孵化事業により17,486,000匹の稚魚を放流している。古来より地域住民は鮭を塩引きや切り身にしたり、イクラにしたりして、それぞれの家庭で料理を楽しんできた。泉田川漁協は津波により施設設備に大きな被害を受けたが、この荒井孵化場での鮭稚魚孵化事業の再開をめざしている。川の水からは放射性セシウムが検出されていないが、しかし、河川敷全体が汚染されている状況であり、稚魚の孵化事業は極めて困難であると言わざるを得ない。河川についての除染は今後どう進めていくのか明確に示していただきたい。地域としては、汚染された現状を放置することなく徹底した除染を行うことを切に希望。

【表題⑥】請戸川や高瀬川に架かる橋周辺の除染について

【場所】大字幾世橋辻前の幾内橋、その他すべての橋（調査地5）

【内容】橋の直下は線量が高くないが、土手と土手沿いの道及び河川敷は未除染である。土手も人が通る場所であり、除染を徹底すべき。

【資料】

- ①幾世橋地区請戸川、高瀬川除染結果報告書
- ②請戸川下流域の調査内容
- ③平成27年度請戸川河川敷における無人ヘリを用いた放射線分布測定結果

4. 河川敷

【写真等情報】



←⑤幾内橋 0.3~0.45 μ Sv/h



⑮荒井の河川敷→
0.7~1.2 μ Sv/h



← ⑯荒井孵化場周辺 →

← 取水口のある河川敷では
1.3~1.75 μ Sv/h

孵化場付近→
0.5~0.8 μ Sv/h



【位置情報】



5. ため池、用水路、田畑

【意見・質問】

【表題⑦】ため池の除染について

【場所】大字北幾世橋の百間沢ため池、大字北棚の金ヶ森ため池(調査地8)

【内容】堤は除染されたのかどうか、多くの地域住民がわからずにいる。また、周辺に降った雨水は森林内から放射性物質を含んだ土砂を運び込んで池底に溜まるため、池底の堆積物や土は線量が高いのではないかと不安がある。また、百間沢ため池、金ヶ森ため池の水は大柿ダムから引いているため、ダム湖の水が攪拌された時に流れてきた場合は放射性物質が溜まるのではないかと不安もある。どこまで除染の手を入れるのか、明確に示すべき。

【資料】

- ①百間沢ため池空間線量測定結果
- ②平成26年度避難指示区域内のため池調査結果
- ③平成27年度避難指示区域内のため池調査結果

【表題⑧】側溝や用水路及び排水路の除染について

【場所】大字幾世橋字一里檀、大字北幾世橋字西原（調査地2、7）

【内容】側溝や用水路及び排水路においては、枯れ葉や枯れ枝等が溜まっている場所がある。震災以前から溜まっていたり、平成27年9月の洪水により溜まったりしたものであるが、こういう場所は共通して線量が高い。堆積物の処分も含めて、除染を徹底すべき。

【資料】

- ①NPO法人JINガンマカメラ撮影等

【表題⑨】農地(水田)に共有される水は安全か

【場所】地区全体

【内容】現在、地区の用水路の復旧は未実施ですが、今後、水田を耕作するにあたり、大柿ダム湖底は除染しない方針ですが、今後農作物への影響はないのか、また、監視体制は。

【資料】

- ①大柿ダムの放射性セシウムの実態と対策-請戸川地区の農業復興に向けて-
- ②平成27年度浪江町内作付作物放射能調査結果
- ③平成27年度浪江町避難指示解除に関する有識者検証委員会における 大柿ダムに対しての検証結果

【表題⑩】洪水により線量が高まった畑付近の除染について

【場所】大字幾世橋字一里檀（調査地2）

【内容】平成27年9月の洪水時に、ブドウ畑のそばの側溝には畑に降った雨水だけでなく高瀬川の水が逆流して土砂が溜まり再び線量が高まった。一度除染を行った場所でも、線量が高くなった場所については、除染を再び実施してほしい。

一方、NPO法人Jinがブドウを栽培している畑に近い高瀬川の土手・河川敷には放射性物質が大量に存在している。栽培事業に影響するので早急な除染が必要である。

国の方針と対策を示すべき。

【資料】

- ①NPO法人JINガンマカメラ撮影等

5. ため池、用水路、田畑

【写真等情報】



←【⑦百間沢溜池からの用水路の様子】

0.2~0.4 μ Sv/h

放射線量が高い落ち葉などが大量に溜まっているため、除染を希望したい。

【⑧百間沢溜池】→

0.25~0.4 μ Sv/h



←【②NPO法人JINの畑】

畑一帯は27年9月に洪水に遭った。側溝の線量が高いので計測側溝に高瀬川の水が逆流してきたため、畑に隣接している側溝は高い線量である。0.68~0.87 μ Sv/h

【位置情報】



6. 除染未同意者への対応

【意見・質問】

【表題⑪】除染を実施していない箇所の対応

【場所】大字幾世橋字長田東（調査地1、9、10）

【内容】除染した田と比べて線量が高いままである。線量が周りの田に影響している。地権者の同意を得なければ除染できないとのことで、地権者が放置したまま田は荒れているため景観的に異様な状態である。この情景を目にして、多くの住民が困惑している。

国は「責任を持って除染する」という方針を打ち出しているのだから、地権者に対して除染を勧め撤退すべき。

また、その他、未同意の箇所についても同様に除染を徹底すべき。

【資料】

①現在の浪江町の同意取得状況

【写真等情報】



←【⑨町境の住宅地周辺】
社有地の畑は除染されたのか不明である。

0.2~0.5 μ Sv/h



【⑩エスエス製薬入口】→
敷地の法面で 0.22~0.43 μ Sv/h

【位置情報】

